

考察：

1. 2016年まではアブラゼミがクマゼミより多く生息していることやニイニイゼミやツクツクボウシも少し生息していることから、森林が近くにあり城北公園より湿度が高く自然度も城北公園より高い環境であると推測できる。

2. 2017年からアブラゼミよりクマゼミの生息数が多くなっている。この期間二の丸広場や和歌山城の森の樹木構成に変化はないので、周りの都市乾燥化や都市温暖化、地球温暖化により、二の丸広場の乾燥化、温暖化が進んでいると推測できる。

○和歌山城 動物園付近 調査結果

	クマゼミ	アブラゼミ	ニイニイゼミ	ツクツクボウシ	ミンミンゼミ	合計	参加者数	自然度
2019.8.18	244	127	8	1	1	381	22	4

考察：

クマゼミが優先するが、ミンミンゼミの抜け殻があり、かつニイニイゼミの生息も多いことから自然度が高い、和歌山城の森と隣接しているので、森との境のところで土中の湿度が比較的高いことが推測できる。

和歌山市汀公園 調査結果

	クマゼミ	アブラゼミ	ニイニイゼミ	ツクツクボウシ	ミンミンゼミ	合計	参加者数	自然度
2019.8.18	102	13	2	0	0	117		1+

考察：

クマゼミの優先率が高いのだが、ニイニイゼミが2個発見されているので、自然度が1+である。

ニイニイゼミの抜け殻は、公園内の一部分で林になっている所で発見しているので、この部分のみ比較的湿度が高いことが推測できる。